

徳山ダム工事 29日から見学会

参加者募集

岐阜県藤橋村で建設中の徳山ダムについて理解を深めてもらおうと、資源開発公団中部支社は、七月から十月の間、

四回にわたって、ダム工事現場の見学会を開く。

見ることができる。貝塚
会が開かれるのは、今月
二十九日、八月二十六
日、九月三十日、十月二
十八日の四回。午前十時
ごろ、名古屋市中区三の
丸の水資源開発公团中部

支社を出発、ダム河床の

一會館で開かれた写真。

徳山ダム事業には愛

知ります。

めぐっては、水需要予測

が過大だとして事業詐欺

取れ消しを求めて住風

説小説の歴史

か、総事業費が予定の二

千五百四十億円を大幅に

2、農業の問題

波紋が広がつてゐる。

シンポは、反対運動に

取引の市四國佐賀

など、東海三県の約十

『愛知』の負担も強調

名古屋で徳山ダムシンボ

水資源開発公団が岐阜

栗藤橋村で建設を進めて

いる徳山ダムは、利水や
治水、建設費用負担などに

愛知県、名古屋市の住

民にも関係があるとして、『徳山ダムは名古屋の問題』と題したシンポジウムが十二日、名古屋市千種区の生協生活文化

波紋が広がっている。
シンポは、反対運動に
取り組む市民団体や、
連する訴訟の原告・弁護士
団など、東海三県の約

か、総事業費が予定の二千五百四十億円を大幅に上回ることが明らかになり、負担する各自治体に枝葉が云がっている。

し、各國治体の負担にならることを強調した。

長を務める在間正史さんは、建設費用について「公団の自己負担は一切なく、国が補助するほか、自治体が完成後二十数年の分割で支払う。水道の徴収料金から支払うが、供給がなければ収入はない、一般会計から繰り入

告。徳山ダム訴訟原告で名古屋水道労働組合の武藤仁さんは、横ばいで推移している市の給水量に対し、徳山ダムが稼働した際の給水量を市が一四倍と予測していることを「大幅に乖離(かいり)している」と訴えた。

団体が開いた。住民団体の代表者や弁護士、大学教授ら八人が現状を報告。徳山ダム訴訟原告で名古屋水道労働組合の武